

口頭発表 A会場

① 11:00～11:40

義務教育学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

義務教育学校における組織文化の「強み」を生かした
学校経営方策に関する一考察

男鹿市立船川第一小学校 教頭 佐藤文知

<提案のポイント>

2016年に制度化された義務教育学校は、児童生徒数減少や小中一貫教育推進により今後も増加が見込まれる。本研究は、着任教員の戸惑いや意識変容、その要因等を調査し、組織文化の強みを考察したものである。結果、前後期課程の違いによる戸惑いが多く、慣れには1～3年程度の期間を要すること、違和感の吸收・解消が新たな組織文化形成に寄与すること等が示唆された。提案として、違和感解消のプロジェクトチーム設置や研修の充実を挙げる。

② 12:40～13:20

小学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

学級担任制と学年(学団)担任制の融合に関する一考察
～若手教員への指導の継承とベテラン教員の更なる資質能力向上を目指して(所属校の実態に照らして)～

大館市立川口小学校 教頭 松本貴泰

<提案のポイント>

全国的に教員の年齢構成は二極化傾向にあり、秋田県においても同様である。小学校における「学級担任制」という考え方から、学年(学団)全体で子どもたちを育てるという「学年(学団)担任制」の取組を行うことで、「若手教員とベテラン教員双方の資質能力の向上につながるのではないか」という仮説のもと、規模の異なる小学校で実践を行うことができた。それぞれの学校での取組の成果と課題を踏まえ、持続可能な取組を提案したい。

③ 13:30～14:10

小学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

「自ら学ぶ子ども」の育成を支えるカリキュラム・マネジメントの探究
～年間指導計画を活用した教科等横断的な授業づくり～

横手市立大雄小学校 教頭 高橋政樹

<提案のポイント>

所属校の特色を生かした「カリキュラム・マネジメント」を展開することの有用性に関する発表である。昨年度は、所属校で身に付けさせたい3つの資質・能力ごとに、単元や題材の関連を示したカリキュラムを作成し、その効果について考察した。今年度は、全学年が「わくわく」をキーワードにした教科等横断的な学びを展開し、その実践についてのまとめを行った。より効果的な「カリキュラム・マネジメント」の実践について提案する。

口頭発表 B会場

① 11:00～11:40

小学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

小学校教員の働き方改善方策の検討
～校内組織による意識改善を目指した実践を通して～

大仙市立東大曲小学校 教頭 佐藤智美

<提案のポイント>

校内組織「校内働き方改革推進委員会」による取組（①情報提供 ②意見交流 ③改善計画の立案・実施）が、働き方改革の目的の理解を促し、仕事や生活の充実を図るために具体的に行動しようとする意識の向上につながった。また、個々の抱える働き方への不安を軽減し、教職員間に一体となって働き方改善に取り組んでいこうとする雰囲気が醸成され始めた。校内組織による働きかけが、意識改善を促す手段となり得るという示唆を得た。

② 12:40～13:20

ふるさと教育
[大学院研修]

秋田県のふるさと教育の現状と課題
～充実と推進に向けた方策の提案～

県立栗田支援学校 教諭 遠藤葵

<提案のポイント>

本研究は秋田県のふるさと教育の充実を図るための方策の提案を目的とし、その現状と課題を調査、分析した。県内全学校種の公立学校からのアンケート結果から、課題として地域連携ことでの教師の多忙感や授業の形骸化などが挙げられていた。また、国際バカロレア教育学校の高校生と本県の高校生の意識調査結果から、本県高校生の政治や社会問題への関心の低さが見られた。以上の結果を考察し、4つの方策を提案する。

③ 13:30～14:10

高等学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

高等学校における外部指導者を活用した運動部活動改革の推進

県立西仙北高等学校 教頭 富樫義史

<提案のポイント>

本研究は、高等学校における外部指導者活用が生徒の成長と教員の負担軽減にどのように寄与するかを検証し、部活動改革の方策を提案するものである。アンケート・インタビュー・先進校分析・実践検証を通じ、外部指導者の専門性が指導の質向上や意識変容を促すことが明らかとなった。一方で、人材確保の困難や校内理解、報酬面など継続に向けた課題も確認された。これらを踏まえ、学校・地域・行政が連携した持続可能な活用体制の構築を提案する。

口頭発表 C会場

① 11:00～11:40

特別支援教育 [秋田大学教職大学院研修]

障害者の生涯学習で求められる知的特別支援学校の役割に基づく地域実践
～卒業後の地域参加を目指した地域連携の取組～

県立支援学校天王みどり学園
教諭 渋谷 純一

<提案のポイント>

天王みどり学園の保護者・教職員調査と実践を通じ、生涯学習充実に向けた知的特別支援学校の役割を検討した。調査では、保護者の生涯学習に対する認識傾向や教職員の専門性向上の必要性が示唆された。実践では職員研修と地域連携による青年学級改善を行い、参加者増加・活動内容改善・教員負担軽減が確認された。地域差を踏まえ、知的特別支援学校では在校生・保護者に生涯学習の魅力を伝え、卒業生を地域資源につなぐ中間支援と持続可能な体制整備が必要である。

② 12:40～13:20

特別支援教育 [総合教育センター研修]

知的障害特別支援学校中学部生徒が自己の成長に気付き、中学部生徒の自己有用感が育まれる指導・支援の在り方
～生活単元学習における交流活動の実践を通して～

県立ゆり支援学校
教諭 粟津 綾乃

<提案のポイント>

本研究では、中学部生徒の自己の成長への気付きを促し、自己有用感を育むための指導・支援の在り方を探った。自己有用感の構成要素を視点とし、生徒が振り返り活動で用いる振り返りシートと、教師が生徒の様子を記録する観察シートを作成して、交流活動の単元で活用した。観察シートを基にした指導・支援の共通理解と振り返りシートを通じた生徒の行動に対する意味付け、承認の対話を継続的に行うことで、生徒の確かな変容を実現した。

③ 13:30～14:10

特別支援教育 [秋田大学教職大学院研修]

特別支援学校における教育活動の充実に向けた地域連携の在り方
～学校運営協議会の課題と改善策の検討を通して～

県立ゆり支援学校
教諭 加藤 俊和

<提案のポイント>

県内特別支援学校唯一の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）導入校において、学校運営協議会の機能が教育活動に十分反映されていないとの課題に対し、CSポートフォリオ診断を活用した現状分析と熟議で出された課題の改善策の検討を行った。考察では、地域連携を学校運営の柱に据え、教育課程改善のサイクルに組み込むことで、教員の意識向上と地域連携の強化を図り、教育の質的向上を目指すことが挙げられた。

口頭発表 D会場

① 11:00～11:40

生徒指導

[国立教育政策研究所研究指定校事業]

子どもの発達を支える生徒指導の推進
～児童生徒の主体的参画等、生徒指導との関連を意識した特別活動の充実による魅力ある学校づくり～

羽後町立羽後中学校 教諭 佐藤 裕理子

<提案のポイント>

羽後中学校が拠点校となり、町内4校の小学校とともに、実践を進めて3年目となる。特別活動の充実により、生徒が主体性をもって自己決定し、実践する場を保障することが、常態的・先行的生徒指導に繋がると考え、様々な取組を推進してきた。学校生活意識調査や授業アンケート等から見えてきた課題にアプローチしながらP D C Aサイクルを回すことによって、生徒が自己肯定感を高め、未来の自分が楽しみになるような支援の在り方を考える。

② 12:40～13:20

発表なし

③ 13:30～14:10

教科等指導

[文部科学省委託 いのちの教育あったかエリア事業]

いのちの教育あったかエリア事業実践報告
～地域との連携を通じて育む「命の大切さ」と「思いやり」～

北秋田市立合川中学校 教諭 松尾 孝
北秋田市立合川小学校 教諭 伊賀 優貴
県立秋田北鷹高等学校 教諭 青山 竜也
教諭 工藤 明

<提案のポイント>

本発表は、「いのちの教育あったかエリア事業」の一環として、地域と連携した道徳教育の実践を報告するものである。合川小では道徳科を中心に学校行事や地域連携を通していのちの教育を推進し、合川中では地域の特色を活かした特別活動を通して生徒の心に迫る道徳教育を目指した。秋田北鷹高では地域との連携を基盤に三つの柱に基づく教育活動を行い、ルーブリックで生徒の成長を可視化した。本発表では、各校の成果と課題を報告する。

口頭発表 E会場

① 11:00～11:40

高等学校 教科等指導
[県教育委員会の要請]

SpeakingとWritingを統合した英語発信力強化
～Sustainableでfeasibleなパフォーマンステストの実践を通して～

県立大曲高等学校 教諭 伊藤 孝紘

<提案のポイント>

生徒の英語による発信力の強化に向けたライティング活動とスピーキング活動の統合と、AI活用の取組の実践について発表する。ライティング活動とスピーキング活動を個別の活動とせず、それぞれの目的として設定することで、活動の先が見える授業展開を提案する。また、その過程で教師の負担を減らし、生徒の学習を個別最適化させるAIの効果的な活用法についても提案する。

② 12:40～13:20

高等学校 教科等指導
[県教育委員会の要請]

AIの活用による言語活動の工夫と充実

県立鹿角高等学校 教諭 嶋山直央

<提案のポイント>

株式会社ベネッセコーポレーションと株式会社POLYGLOTSが開発する英語アプリ、GELP(ジェルピー)を令和7年6月から授業内外で活用した。生成AIが部分的に導入されており、録音・入力した発話・記述内容の採点と添削、「AI Talk & Debate」による即興的対話機能が注目すべき特徴である。発信活動の中間指導として本アプリを使用することで、個別最適な学びの一層の拡充につながるのではないか。

③ 13:30～14:10

高等学校 教科等指導
[県教育委員会の要請]

発信力を高める英語表現活動の研究
～高等学校外国語科におけるAIの活用～

県立秋田北高等学校 教諭 佐藤 康一

<提案のポイント>

外国語の授業で生徒が自分の発話や作文をAIに入力すると、AIがそれを評価して正しい表現に修正してくれる。英語コミュニケーションではAIアプリ「GELP」を、論理表現では生成AI「Gemini」を個別指導のツールとすることで、生徒に正確な表現を定着させることができとなった。FLUENCYとACCURACYのバランスをとりながら、即興性を重視する授業でのコミュニケーションおよびディベート等について模索する。

口頭発表 F会場

① 11:00～11:40

発表なし

② 12:40～13:20

就学前教育 [研究委嘱・指定]

子どもも 保育者も いきいきと輝く姿を目指して
～合言葉「安心・受け止め・タイミング」～

大曲南保育園

園長補佐兼主任保育士 山信田 和 浩
保育士 鈴木 牧子

<提案のポイント>

大仙市の大曲中心部の利便性が良い地域であり、園児数も多く大規模な保育園である。子どもたちを中心に、子どもの「安心」や「好奇心」から意欲や思考へつながる保育者の関わりを重点に置いて取り組み、園全体で子どもの姿を見取る方法として、保育の関わりキーワードの三つの合言葉を掲げてきた。保育の視点を共有し、チームとしての明確な目的を持つことで子どもの内面理解を深めることができると保育につながっている。

③ 13:30～14:10

キャリア教育 [本県教育の振興]

秋田県民らしさと社会性を獲得するための総合的な学び
～キャリア教育の第一歩～

むつみ幼保連携型認定こども園
副園長 味水 裕祥

<提案のポイント>

当園の日常の教育・保育活動は3つの2歳から5歳の異年齢グループで行っている。

その中で子どもたち自身が考え、活動が園全体を巻き込んでいる。自ら考え課題に向き合い、子どもの集団で、子どもたち同士の提案から出た長期プロジェクトの発展と、その成果がキャリア教育の一歩となり、子ども達のみならず周りの人々を含めた社会のウェルビーイングにつながると考えられる。そのプロセスを紹介する。

口頭発表 G会場

① 11:00～11:40

**生徒指導
[長期社会体験研修]**

非認知能力を育成するためのSEL的アプローチの実践

北秋田市立義務教育学校阿仁学園

教諭 柏木太郎

<提案のポイント>

SEL（ソーシャル・エモーショナル・ラーニング／社会性と情動の学習）とは、自己の捉え方と他者との関わり方を基盤として、社会性に関するスキル、態度、価値観を身に付ける学習である。本実践では、SELで育成を目指す社会的能力を児童生徒向けに平易化、図式化した上で体験活動の価値付けや事前指導、振り返りに生かした。また、自作シートを用いた授業や、アンケートでの変容の把握、通信を通じた保護者への情報発信等を行った。

② 12:40～13:20

**長期社会体験研修
[本県教育の振興]**

**民間企業の視点から考える教職員の資質向上について
～わらび座での長期社会体験研修から学んだこと～**

美郷町立美郷中学校 教諭 長沼 実

<提案のポイント>

わらび座での長期社会体験研修を通じ、民間企業の経営姿勢や顧客対応、チーム力の重要性を体感した。キャリア教育に活かせる実体験を得るとともに、人脈構築や企業視点の理解を深めた。一方、学校現場では業務過多や個人負担が課題であり、企業のように責任を共有する仕組みや柔軟な発想を取り入れ、働き方改革と組織力強化を進める必要があると考えた。研修を通じ、生徒や学校に還元したい多くの学びを得た。

③ 13:30～14:10

**教科研究会の研修の在り方
[本県教育の振興]**

**教科研究会における省察的研修のあり方に関する一考察
～リフレクションシートと対話による豊かな気付きの創出～**

秋田市立将軍野中学校 教頭 大友正純

<提案のポイント>

秋田市算数・数学教育研究会が主催する夏季研修会において、翻案の5つの過程を縦軸に、認知の4点セットを横軸に配置したリフレクションシートを活用し、省察を中心に据えた研修会を実施した。リフレクションシートは、自身の観に気付くこと、自身の思考の可視化に効果的なツールである。参加者の振り返りから、リフレクションシートを用いた対話型の研修が、自己内省の深化と豊かな気付きに寄与することが示唆された。

口頭発表 H会場

① 11:00～11:40

**情報教育
[本県教育の振興]**

**個別最適化を主眼に置いた生成AIの教育的活用とその可能性
～生徒の自発的な学習活動を促す教育DXの実践について～**

県立秋田南高等学校
教諭(兼)教育専門監 小西一幸

<提案のポイント>

予測不能なVUCAの時代には、生徒が自ら考えて行動（学習）する力が必要です。生成AIを「適切なアシスタント」として活用することで、生徒一人ひとりの学習履歴や理解度に応じた個別最適化された学習環境を創出します。本発表では、その教育DXの実践として、授業での探究学習支援や質問応答システムの具体例を紹介します。また、教師の校務効率化への応用例と、生徒へのAI活用のアンケート結果を提示し、AIを効果的に活用し、自発的な学びを促す教育の可能性について提言します。

② 12:40～13:20

**高等学校 教科等指導
[本県教育の振興]**

**課題解決のための”ものづくりの実践”における情報技術の活用
～工業高校における”ものづくりの実践”報告～**

県立大曲工業高等学校 教諭 伊藤健一

<提案のポイント>

DXハイスクールに採択された本校は、工業高校として「デジタル技術を活用した総合的・探究的な学びの実施」に取り組んでいる。この事業で導入された3D設計・部品製作設備やAI技術の活用を取り入れた授業を模索している。その一つとして、県内の全高校へ配付されたプログラミング教材の“マイクロビット”でコンテストに参加することは、生徒達にDX社会において必要な「課題解決能力」を身に付けさせる支援となった。

③ 13:30～14:10

**高等学校 情報教育
[本県教育の振興]**

**博士号教員とデータサイエンス教育について
～高等学校情報科における指導の充実(C研修：C-38)の成果と課題～**

県立大曲農業高等学校 教諭 大沼克彦
県立秋田高等学校 教諭 遠藤金吾

<提案のポイント>

博士号教員は探究活動の中でデータの分析や活用について指導している。その中で実験データの不適切なまとめや表示が多いことが課題であると感じていた。C研修（C-38：令和7年6月17日開催）において、データサイエンスの基本となるグラフ作成、データ分析について簡単な説明と例を挙げて指導法について説明した。そこで見えてきた課題とその対策について提案したい。